

# 公益財団法人とよなか国際交流協会

## 2016(平成 28)年度事業報告について

### I. 事業報告 総論

#### 【はじめに】

公益財団法人とよなか国際交流協会(以下、協会)は、「市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめて、世界とつながる多文化共生社会をつくる」を基本理念とし、とよなか国際交流センター(以下、センター)を拠点として、外国人市民の自立や社会参加に向けた総合的な外国人支援と多様な文化が認められる「場づくり」や差異ある人々との共生のために行動できる「ひとづくり」を推進してきました。しかし、センターの移転(2010)、指定管理者制度の本格実施(2011)、公益法人への移行(2012)、20周年(ハタチ)記念事業及び指定管理者中間第三者評価(2013)、大阪府公益立入調査(2014)、第三期指定管理者応募(2015)等など、協会にとって次々と大きな課題が押し寄せてきました。しかし、この様々な課題を克服するために、職員・市民ボランティア・協会役員それぞれが持てる力を出し合い、より活力ある協会運営を目指してきました。特にここ数年は、「アウトリーチで地域とつながって歩む」、「ネットワークで確かな支援の輪を」、「次世代と共に持続可能な共生社会へ」といった基本的な方針をもとに精力的な事業展開を行うと同時に、財団の安定したガバナンスの更なる確立を図ってきました。そして、豊中における国際交流と多文化共生推進の拠点としてハブ的役割を担えるよう努めてきました。2016年度は、センターの第三期(2016~2020年度)指定管理者期間の1年目として、これまでの事業を発展させるとともに新たな事業もスタートさせてきました。

#### 【アウトリーチで地域とつながって歩む】

協会の取組をより広く伝えるため、年次報告書「こくりゅう@home 2015」を作成し、各所に配布、説明を行いました。特に豊中市社会福祉協議会が実施する「地域福祉ネットワーク会議(全7地域)」、市の保健師会には定期的に出向き、福祉の担い手の方々への情報提供を行いました。

しょうないREKとの協働で「外国人のための多言語進路説明会」開催(庄内公民館)、「豊中まつり」ダンス出演(豊島公園:曾根)、「さんあいイベント」での出店(ふれあい緑地:服部)などを行いました。また、日本語ボランティアとともに千里公民館、千里図書館と打合せを重ね、2017年4月から日本語交流活動「千里にほんご」(毎週木曜日)を開始するに至りました。

さらに地域や関係者とのつながりをより確かなものにするため、1月に「新春のつどい」を開催し、センター・協会事業の紹介、関係者間の交流を行いました。センター・協会事業の関係者以外にも市役所職員や議員(市議会、府議会、国会)、駐日領事らの参加がありました。

こういったアウトリーチを通じて、豊中市内の様々な地域で活躍する人々や団体とセンター以外での取り組みを進めたり、協会・センターの知名度を一層高めることができました。

#### 【ネットワークでより確かな支援の輪を】

センターの登録グループ(25団体)との連絡会議を5回開催し、「とよなか国際交流フェスタ 2016」を実行委員会形式で開催しました。

地域の間支援団体(5団体)とは情報交換、効果的な情報発信を行うため、継続的に壁新聞の作成を行っています。特に豊中市スポーツ振興事業団とは「サムライプロジェクト」として、外国人向け日本の武道体験(柔道、剣道、合気道)を実施しました。

また、府内で活動する国際交流協会と行政担当とのネットワーク「国流ネットワークおおさか」では、月1回程度の割合で会議を持ち、情報交換や協会の事業・運営等に関する研修会(3回開催)を開催し、課題や課題克服のためのアイデアの交流などを行いました。

さらに、災害時に外国人への情報提供を行うため、豊中市と災害時の多言語支援センター設置に関する協定を締結し(2月28日)、大阪大学大学院国際公共政策研究科と外国人への多言語での情報提供に

関する協定を締結しました（3月11日）。

その他にも多様な団体との協働や連携によって、個別ではできない活動や支援を展開し、ネットワークでより確かな支援の輪を広げています。

### 【次世代育成を通じて持続可能な共生社会へ】

この間の重要な事業の一つに、文化庁の助成を受けて4年目となる「若者支援事業」があります。現在の日本社会に横たわるニートやひきこもり、そして浮遊する若者の課題は、外国にルーツをもち日本で暮らす若者も例外ではありません。次世代を担うべき若者を事業につなげ、社会への参加・参画を図ることは重要な社会的課題であり、持続可能な社会を展望する上で欠かせない取組であると認識し、多くの力量を割いて事業展開をしてきました。共に生きるが故の苦悩や喜びを持つ外国ルーツの若者に、同じ背景をもつ外国にルーツをもつ若者に出会い癒され、元気を取り戻すエンパワメントの場を提供しています。2016年度はそれまでの3年間の取組を振り返り、事業内容を若者の居場所である「たまり場」（毎土曜夜）、若者相談（毎土曜昼）、日本語支援（毎土曜昼）に集約し、いずれも若者自身がミーティングを実施しながら、精力的に運営しています。この事業は、持続可能な協会&センターの安定した運営にも深くつながると同時に、地域社会を支える貴重な財産となり、多文化共生社会の創生の礎になると確信しています。2017年度は若者支援事業を日曜日に移し、子ども事業（サンプルイス、子ども母語）との連動、「子ども・若者」という大枠での事業展開についても検討を進めていきます。

映像を通じた交流の場としての「てーげー大学」は昨年度から「てーげーコミュニケーションズ」と名前を改め、今年度は相談事業の「リコン・アラート（協議離婚問題研究会）」の啓発用動画の編集で大きな力を発揮しました。

また、2016年度は新たに市の委託事業として、生活困窮世帯の子どもの就学・就労に向けた学習支援事業「学楽多（がらくた）」をとよなか国際交流センター及びしょうないガダバでスタートしました。外国にルーツをもつ子どもを中心に、働く力や生きる力につながるような学びの場を提供しました。

次年度も引き続き、文化庁の助成金や市の委託を得て、次世代育成を通じた持続可能な共生社会作りに取り組みます。

### 【相談事業とコミュニティ支援】

相談事業について、協会が事務局を務めた「リコン・アラート（協議離婚問題研究会）」では、勝手に離婚され、本人も子どもも大きく人生をくるわされるという相談事例が頻発していることを問題視し、関係機関・団体と連携して協議離婚制度に関する問題点について、情報提供、啓発する動画やパンフレット、ホームページを作成し、公開しました。

相談事業では他にも、多言語スタッフを中心にコミュニティ作りや日頃の相談対応から感じる課題の解決を目指して外国人向け講座やイベントを企画し、実施しました。高齢者調査事業では、介護施設や外国人高齢者に対するヒアリングなどを行いました。2017年度は調査結果を踏まえ、情報交換、情報収集、交流のためのコミュニティ支援を行います。

外国人の孤立を防ぎ、地域社会の一員として安心して暮らせるよう、また防災などの観点からも情報から漏れる人が出ないように、今後も相談事業の一環としてコミュニティ支援を進めていきます。

### 【センター利用者とボランティア】

センターを利用した人は、CCスペースを含めて年間82,673人(昨年と比べ3,169人減)、うち外国人(㊦\*)利用者は32,195人で全体の約40%を占めています。センター利用者は減少していますが、年間の貸室の件数は5,798件で前年度より増加していることから、個々の事業やイベントへの参加者が減少しているものと考えられます。利用者数における外国人利用者の割合は、豊中市の外国人割合(国籍では約1.15%)を考えると、目的公共施設としての役割を大きく果たしていると同時に、外国人が積極的に利用している施設であることを示しています。詳しい事業ごとの数字は事業実績詳細のとおりですが、おとな国際事業、子どもサポート事業や多文化子どもエンパワメント事業は、その内容や実施形態も多様なニーズに沿って実施されており、バラエティに富んでいます。今後はより足を運びやすいセンター、参加しやすいセンターを実現するため、ホームページ等を通じた情報発信、施設訪問者に対する掲示物等での情報発信を工夫します。

3月下旬に行われた事業評価会(全29事業)とランチ交流会では、各事業の担当の市民ボランティアの皆さんとともに事業評価を行い、普段できないセンターのボランティア同士の交流の場となり大いに

盛り上がりました。また、多くの市民が多様な活動を支えており、それぞれの事業が相互関係にあることを分かり合い、参加された豊中市役所関係者をはじめ多くの市民団体の方々にも理解していただく貴重な機会となりました。

また、より時代の流れに合わせた事業展開を行うため、ヘイトスピーチ解消法を考える研修会やとよなか国際交流センターの過去を振り返り、未来を展望するセミナー（豊中市制 80 周年記念連続セミナー）を実施しました。

#### 【国際交流と多文化共生のハブ的役割として】

以上みてきたように、協会はアウトリーチやネットワークづくり、若者支援事業を重要しながら人権尊重を基調とした外国人の総合的支援と多文化共生社会推進を担ってきました。1993 年来 23 年間、国際交流活動と多文化共生推進事業を担う法人運営と事業実績をもとに、センターの第三期（2016～2020 年度）指定管理業者としてスタートを切りました。「多様な文化や人が尊重される豊かで魅力あるまちづくり」の実現のために、より広範な支援活動と地域貢献活動を展開していきます。また、地域で長年活躍してこられた市民活動団体や市民の皆さんと共に、引き続き、『チームとよなか』の一員として、国際交流と多文化共生のハブ的役割を担っていきます。

⑩協会では国籍だけでなく、外国にルーツを持つ人びとも含めて「外国人」と認識しています。

## II. 事業概要

### II-1 事業内容

市民の主体的な参加による人権尊重を基調とした多文化共生社会を創出するため、次の事業を行った。

### II-2 内容の詳細

#### I. 多様な人々が尊重される地域づくり事業

##### 1. 市民主体の国際交流活動推進事業

###### (1) 情報サービス事業

趣旨：市民の国際交流活動が推進される環境整備をする。

内容：協会やセンターからのお知らせの発行（日本語および多言語）、新聞・書籍・雑誌などの閲覧提供、コミュニケーションボードの設置、ウェブサイト、SNS、メールニュース等を利用した情報発信、無料インターネットなどを提供した。

対象：国際交流に関心を持つ一般市民

主な実績：とよなか国際交流センターのウェブサイト運営。多言語ニュースレターの毎月発行ならびに E メールでの配信、ホームページでの情報提供（日本語、多言語）、フェイスブックでの毎日発信、協会事業のメディアへの掲載、外国語図書ならびに民族衣装や教材貸出 他

###### (2) 市民活動協働事業

趣旨：市民の国際交流活動が推進される環境整備をする。

内容：市民団体の活動支援のため、とよなか国際交流センター登録グループの連絡会を開催し、市民実行委員形式でフェスタを開催した。また、市民個人および団体に対して随時相談に対応した他、地域の市民団体と事業を共催、また団体の運営に対して必要に応じてサポートを実施した。また、福祉、男女共同参画推進、環境、スポーツ、市民活動、協会の7団体で編集して壁新聞を発行し、中間支援組織間の連携を引き続きはかった。その他、「しょうない REK」実行委員会への参加など地域の他団体との協働をすすめ、国際の視点にたった取り組みを行った。

対象：国際交流に関心を持つ一般市民および団体

主な実績：壁新聞の発行、しょうない REK 実行委員会への参加、市民団体の運営協力、市民団体・個人からの相談対応

###### (3) 留学生ホストファミリー事業

趣旨：市民の国際交流活動が推進される環境整備をする。

内容：近隣の大学と日本学生支援機構大阪日本語教育センターの留学生とホームビジットの形で1年間の交流をマッチング、ホストファミリーが参加できる催事を企画、対象者にニュースレターを発行した。

対象：国際交流に関心を持つ一般市民

主な実績：ボランティア登録計 121 家族、留学生と 79 組のマッチング、交流会の実施（年 2 回、参加者総数 193 人）

##### 2. おとな国際事業

###### (1) にほんご活動事業

趣旨：外国人市民と日本人市民の出会いや交流、双方の関係が結べる機会を提供する。

内容：日本人や外国人の参加者のニーズにあわせた多様な日本語交流活動を行った。また、2017 年度より設置する新しい日本語交流活動の準備をおこなった。

形態：①もっともっとなつかえるにほんご、とよなかにほんご・木ひる、とよなかにほんご・金あさ、にちようがちゃがちゃだん（希望する外国人と研修を受けた日本人による日本語交流活動）

②おかまち・おやこでにほんご、しょうない・おやこでにほんご、せんり・おやこでにほんご（希望する外国人女性と研修を受けた子育て中の日本人女性による日本語交流活動）

対象：日本語活動参加を希望する日本人および外国人

主な実績：①にほんご活動 のべ実施回数 173 回、参加者のべ 4,605 人（うち外国人 3,057 人）

②おやこでにほんご のべ実施回数 101 回、参加者のべ 1,309 人（うち外国人 459 人）

## （2）多文化共生推進事業

趣旨：多文化共生のまちづくりを実現するための、市民が参加しやすい様々な学びの場を提供する。

内容：世界の文化について様々な切り口で学ぶセミナーやワークショップの開催、また、地域の外国人が必要な地域情報にアクセスできるよう通訳を養成して派遣を行う。

対象：多文化共生の取り組みに関心のある日本人・外国人

主な実績：「世界を食べよう」（3 回）参加者のべ 50 人（うち外国人 5 人）、「多文化・多言語セミナー（1 回）参加者のべ 37 人（うち外国人 9 人）、コミュニティ通訳派遣（2 件）、外国人のための茶道教室（5 回）、国流シネマカフェ（3 回）、武道体験 等

## 3. 持続可能な地域づくり事業

### （1）メディア・リテラシー市民ゼミナール

### （2）持続可能な開発のための教育（ESD）・防災・地域貢献

趣旨：国際化や情報化が進む中、民主的な社会づくりに不可欠な知識・理念・技能を学ぶ機会を提供する。その学びに基づいた行動が地域でできるよう行政や各機関との連携・協働を促す。

内容：①メディア・リテラシー市民ゼミナールでクリティカルな視点を学べる機会を提供した。

②持続可能な開発のための教育（ESD）事業は、ESD とよなか連絡会議に参加し、関係団体との地域課題の共有を行い、「子ども」をテーマに関係団体の連携について検討を重ねてきたほか、ESD セミナーとして「こどもクッキング」を開催した。また、地域における幼小中高や教職員を対象とした国際理解教育の現場に講師を派遣したほか、地域の人たちの外国人の問題や国際理解・多文化共生等に関する相談を随時受けてきた。3 月には東京外国語大学と共催で外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA の使い方研修を開催した。

対象：外国人及び一般市民

主な実績：①メディア・リテラシー講座の開催（年 1 回、2 日間）参加者のべ 30 人（うち外国人 6 人）、②ESD とよなか連絡会議への参加。講師派遣について、年間のべ 64 件、126 人 他

## 4. 持続可能な人づくり事業

### （1）ボランティア研修事業

趣旨：国際交流活動担い手育成のため、ボランティア養成やボランティア研修を実施する。

内容：①日本語ボランティア養成講座ならびに多文化子育て支援ボランティアを、現行ボランティアと新たにボランティアを希望する人を対象に実施した。

②哲学カフェ、多様な支援をする人のための対話の会を実施し、市民の学びあいの場や自由に討論していくスキルを身に着けるための参加と対話の場などを提供した。

③ボランティア研修事業として、今年度は豊中市制 80 周年記念セミナーとして協会の過去および現在を振り返るとともに、ヘイトスピーチ、マイノリティ女性など様々な切り口のテーマについて実施し、様々な人権課題から、ボランティアの基本的な姿勢を学ぶ機会を提供した。

対象：国際交流活動ボランティア、一般市民

主な実績：①日本語ボランティア養成講座の実施（3 回、参加者のべ 103 人）、千里にほんごのボランティア養成講座（3 回、のべ 70 人）、多文化子育て支援ボランティア養成講座の実施（3 回、参加者のべ 98 人）

②哲学カフェの実施（3 回、参加者のべ 39 人）

③「ブックトーク in とよなか国際交流センター 家族写真をめぐる私たちの歴史」、とよなか市制 80 周年記念連続セミナー 新たな多文化共生の地平をめざして～とよなか国際交流センターの過去・現在・未来、「ヘイトスピーチ解消法」を考える～ゆるせない！人種差別を扇動する言動！」（のべ 172 人）

## 5. 子ども国際事業

### (1) おまつり地球一周クラブ

趣旨：次世代の子どもたちが日本や世界の様々な文化の体験を通して具体的に学ぶことのできるような、異文化理解・国際理解の機会を提供する。

内容：月1回ほど「おまつり地球一周クラブ」という日を設け、地域に暮らす様々な人の協力のもと、国際理解を促す体験活動を実施した。

対象：小・中学生とその保護者

主な実績：「おまつり地球一周クラブ」計10回実施、参加者のべ244人。

### (2) 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい

趣旨：韓国・朝鮮につながりのある子どもたちが、民族講師（ソンセンニム）から、民族の文化や遊びを学び通して、自尊感情を培うとともに、友だち（チング）とのつながりを深める場を設ける。

内容：月1回「韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい」を実施し、民族講師から民族文化について学べる機会を提供した。

対象：韓国・朝鮮につながりのある小学生、中学生

主な実績：「韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい」の実施（計10回【※ミーティング含む】）、参加者のべ243人（うち外国人168人）に加え、小学生のハギハッキョ、ハギハッキョキャンプを実施。

## II. 周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり事業

### 1. おとなサポート事業

#### (1) 相談サービス

#### (2) コミュニティ活動

趣旨：在住外国人が抱える課題を解決するために相談サービスを行う。また、相談スタッフが中心となって、地域に住む外国人が自国文化を発表する機会の創出をとおしてエンパワメントを図る。

内容：外国人のための一般生活相談および外国人女性専用電話相談を相談サービス事業として実施した。対応言語は日本語、中国語、韓国・朝鮮語、英語、フィリピン語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ネパール語。相談に対応するための多言語スタッフを配置し、相談全体のコーディネートをし外国人相談を受けられる女性相談カウンセラー、および就労相談に対応できるコーディネーターも配置している。別途必要な通訳や翻訳作業も行っている。

今年度も外国人のためのセミナーや、1日相談会を開催したり、外国人が気軽に参加でき、相談につながる場を設けた。また、外国人が日本人配偶者に「勝手に離婚される」問題をうけて、「リコン・アラート（協議離婚問題研究会）」を他機関と協働して開始し、外国人当事者向けの情報発信を行うなど、外国人が抱える課題を広く社会に提起する取り組みも継続した。

対象：外国人および一般市民

主な実績：①相談受付件数1,146件（前年度比17.8%増）

②専門家による1日相談会を2回開催（税理士、保健師等）

③機関連携によって、より専門的な対応を可能とした。

④昨年同様、寄せられる相談内容からニーズがあるテーマについて学習会を開催した（参加者のべ90人）

⑤リコン・アラート（協議離婚問題研究会）で啓発パンフレット（29,000部）および11言語の動画を制作

#### (3) 防災事業

趣旨：大規模災害時における外国人支援のしくみを市や関係団体とともに構築し、安心・安全なまちづくりのための備えの体制づくりならびにその啓発を行う。

内容：大規模災害時における外国人市民等への情報提供や支援体制を整えるため、昨年より豊中市と協議を重ねてきた。2月28日に豊中市と「災害時多言語支援センター設置に関する協定書」を締結し、災害時における外国人市民等の支援を円滑に行うため、センターの設置・運営並びに当協会と豊中市が果たすべき役割について定めた。さらに、3月11日に「多文化共生フォーラムとよなか2017 大規模災害時における外国人支援、今後のめざすべき方向とは」を開催した。

対象：外国人

主な実績：火災避難訓練の実施 参加者のべ46人

「多文化共生フォーラム大規模災害時の外国人支援」参加者のべ52人

## 2. こどもサポート事業

### (1) 多文化こども保育“にこにこ”

趣旨：「子ども権利条約」に掲げられる権利の主体として差別をうけることがないよう外国人の子どもに対する支援事業を行う。

内容：親の日本語学習の間「多文化こども保育にこにこ」を実施し、孤立しがちな外国人家庭の子どもが多様な子どもやおとなと接し、コミュニケーションをとることで社会性を身につける機会を提供した。

対象：事業参加を希望する外国にルーツをもつ子ども

主な実績：「多文化こども保育にこにこ」のべ93回実施、ボランティアのべ324人、子どもの参加のべ495人（うち外国人495人）

### (2) 子ども母語教室

趣旨：「子ども権利条約」に掲げられる権利の主体として差別をうけることがないよう外国人の子どもに対する支援事業を行う。

内容：子どもや親のニーズに合わせて中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語の「子ども母語教室」を実施し、外国にルーツを持つ子どもたちが母語でコミュニケーションをとれるよう支援をするとともに、子ども同士の仲間づくりを促進させた。

対象：事業参加を希望する外国にルーツをもつ子ども

主な実績：子ども母語教室（中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語）4教室あわせてのべ96回実施、参加者のべ283人（うち外国人240人）、4言語合同イベントの実施（計4回、参加者のべ88人）

### (3) 学習支援・サンプレイス

趣旨：「子ども権利条約」に掲げられる権利の主体として差別をうけることがないよう外国人の子どもに対する支援事業を行う。

内容：外国にルーツを持つ小学生、中学生、高校生への日本語・学習支援を通じた居場所づくり「サンプレイス」を行った。子どものニーズに沿ってボランティアが宿題、日本語、教科の勉強、表現活動などに対応し、子どもたちやボランティアのつながりを深めるための行事や学びの場、企画事業なども行ったほか、子ども相談にも随時対応した。

対象：事業参加を希望する外国にルーツをもつ子ども

主な実績：サンプレイス のべ40回実施、参加者のべ541人（うち外国人422人）、行事の開催（計8回、参加者のべ200人）、子どもに関する相談受付件数73件

## Ⅲ. 学校とつながってつくる豊かな未来事業

### 1. 小学校外国語体験活動事業

趣旨：市内の小学生が異なる文化を持つ人の存在を通して国際理解や共生していく姿勢を育むとともに、外国語を使用してコミュニケーションをはかる積極的な態度を身につける機会を提供する。

内容：豊中市教育委員会との協働で豊中市立小学校の3年生から6年生に外国語体験事業を実施した。体験活動を実施できる外国人ボランティアを配置し、事業を運営した。

対象：豊中市立全小学校、3年生から6年生の児童

主な実績：コーディネーター5人、ボランティア登録数57人（22ヶ国・地域）、実施時間総数1,270時間、体験子ども数のべ37,500人

## 2. 国際教育推進事業

趣旨：豊中市で行ってきた様々な「国際」を総合的につなげるシステムの産出のために、教育資源を共有財産にする学びあい、調査・研究を実施する。

内容：豊中市国際教育推進協議会に参加し、協議を進めた。多文化フェスティバルを共催で開催した。帰国渡日児童生徒学校生活サポート事業・豊能ブロック協議会の構成団体として「多言語による進路ガイダンス」を開催した。

対象：豊中市教育委員会および豊中市立小中学校

主な実績：協議会の開催、実務担当者会への参加。「多言語による進路ガイダンス」の開催（年1回、参加者86人）

## 3. 多文化子どもエンパワメント事業

### （1）とよなか子ども日本語教室

趣旨：豊中市に在住する、在日コリアン、帰国、渡日、といった背景をもつ多文化につながる子どもたちの現状を把握し、そのニーズに対応できるような支援を構想していく。

内容：学習のための日本語支援が必要な子どもの指導者育成と教室運営を教育委員会とNPOの連携の中で行った。

対象：外国にルーツを持つ子ども・若者たちで事業に参加希望をするもの

主な実績：「とよなか子ども日本語教室」の運営を年131回、参加者数のべ2,890人（うち子ども1,689人、ボランティア1,201人）、日本語相談件数25件

### （2）多文化フェスティバル・南北コリアと日本のともだち展

趣旨：豊中市に在住する、在日コリアン、帰国、渡日、といった背景をもつ多文化につながる子どもたちの現状を把握し、そのニーズに対応できるような支援を構想していく。

内容：外国にルーツを持つ子どもたちと保護者が一堂に会し、多様な文化を共に承認できる場としての「多文化フェスティバル」を青少年と子どもの実行委員会形式で開催した。また、「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会に参加し、大阪国際交流センターにて絵画展を開催した。

対象：外国にルーツを持つ子ども・若者たちで事業に参加希望をするもの

主な実績：「多文化フェスティバル」事前会議（計5回、参加者のべ26人）、本番の参加者計345人

### （3）若者支援

趣旨：豊中市に在住する、在日コリアン、帰国、渡日、といった背景をもつ多文化につながる子どもたちの現状を把握し、そのニーズに対応できるような支援を構想していく。

内容：外国にルーツをもつ「若者世代」を対象にした日本語サポートや日本語活動を通じた生活の支援を実施した。また、今後の人材の養成のためのボランティア・コーディネーター研修も実施した。（文化庁委託事業【平成28年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業】「外国にルーツをもつ若者の生活力・表現力アップ日本語事業」）

対象：外国にルーツを持つ子ども・若者たちで事業に参加希望をするもの

主な実績：Ⅰ. ～つちかうにほんご～わかもの×ちいき

「つちかうにほんごサポート」：年29回（参加者のべ54人、うち外国人54人）

Ⅱ. ～とびだすにほんご～わかもの×いばしょ

①「とびだすにほんご～相談してみよう編～」：年42回（参加者のべ96人、うち外国人96人）／②「とびだすにほんご～たまりば編（しろろ・かたろう・やってみよう）」：年46回（参加者のべ328人、うち外国人328人）

Ⅲ. ～つなげるにほんご～わかもの活動ボランティア養成講座 ①わかもの活動ボランティア養成講座（ボランティア・コーディネーター養成研修）：年12回（参加者のべ94人、うち外国人58人）／②活動報告会&つながりワークショップ：年1回（参加者のべ26人、うち外国人13人）

#### (4) てーげーコミュニケーションズ(多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクト)

趣旨：豊中市に在住する、在日コリアン、帰国、渡日、といった背景をもつ多文化につながる子どもたちの現状を把握し、そのニーズに対応できるような支援を構想していく。

内容：2014年度に公益財団法人庭野平和財団からの助成を受けた事業を引き続き自主財源で実施し、「てーげーコミュニケーションズ(多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクト)」として、外国につながる子ども・若者たちの出会いの場を創造するための映像作品を作成した。

対象：外国にルーツを持つ子ども・若者たちで事業に参加希望をするもの

主な実績：「てーげーコミュニケーションズ(多文化子どもエンパワメントメディアプロジェクト)」映像作品制作会議・編集作業 計18回(参加者のべ47人、うち外国人26人)

#### (5) 生活困窮者自立支援事業 子どもの学び場「学楽多」

趣旨：教科学習にとどまらず、働くことや生きることにつながるような多様な学びの場、出会いの場を提供することで、子どもたちを支援する。

内容：2016年度から豊中市の委託を受け、とよなか国際交流センターとしょうないガダバで学習支援を実施した。教科学習にとどまらず、工作や料理、多文化フェスティバルでのブース出店など、子どもたちが多様な人との出会い、多様な経験を通じて働くことや生きることについて考えられるように取り組んだ。

対象：外国にルーツを持つ子どもを中心に、参加を希望をするもの

主な実績：とよなか国際交流センター、しょうないガダバ合わせて計80回(子ども参加者のべ183人、うち外国人122人。ボランティア参加者のべ175人、うち外国人24人)

### 4. 施設管理受託事業

#### ・とよなか国際交流センター貸室業務

#### ・イベント「国際交流フェスタ」の開催及び登録グループの成果発表づくり

趣旨：とよなか国際交流センター貸室業務は定款にある目的を達成するための事業(国際交流の機会提供及び参加促進の事業、国際理解及び国際化に関する啓発・研修事業、国際交流に関する情報の収集及び提供事業、民間団体の国際交流活動に対する支援事業、国際協力に関する事業、在住外国人に対する支援事業など)を推進していく活動ならびに同様の国際交流を目的とする一般市民や利益目的でない限りにおいての一般利用者への貸室業務であり、貸室の利用代金に関する収入は全て豊中市に納付している。

内容：とよなか国際交流センターの国際交流目的利用の市民や一般利用者に対して、公平公正、安全に貸室業務を行った。また、施設利用者への活動発表機会促進と、一般市民への施設や組織の存在意義を提示するために、イベント「国際交流フェスタ」を開催した。さらに視察受入れや、豊中市が中学校を対象に実施する「地域体験学習 CUL(カル)」職場体験の受入れを行った。職員研修も通年で実施した。

対象：一般市民および施設利用者

主な実績：・年間貸室利用者数 58,167人(昨年度比 4,747人減)、うち外国人利用者数 22,941人(昨年度比 3,389人減)

- ・視察受け入れ(計17件、合計200人)
- ・「地域職場体験学習 CUL(カル)」職場体験受入れ(計1校、のべ2人)
- ・「事業評価会」参加者58人
- ・職員研修(計36回)